

二つの創立記念日－広野小学校創立50周年－

平成20年10月1日市立として最初の新設校である広野小学校が開校50周年を迎えました。ところで昭和49(1974)年までは6月1日が創立記念日とされており、同校には創立記念日がいわば二つありました。

本市は「昭和の大合併」の末期の8か町村が関係する3回の合併により誕生した三田町が母体です。このうち昭和31(1956)年の2町3村の合併と昭和32(1957)年の三田町・相野町の合併でそれぞれ作成された「新町建設計画書」には、小中学校については共通して「可及的すみやかに統合する(中略)増改築は統廃合を勘案して行う」と記されています(市史第7巻3号資料)。したがって新生三田町にとっては、合併により引き継いだ分校を含む16の町立小中学校の統廃合と、それを前提とした老朽施設の改善とが「最も急を要する」課題(昭和33年3月町長施政方針演説＝5号資料)だったのです。その背景には中学校の義務教育化を発端の一つとする、当時の町村が一様に抱えていた財政難がありました(市史第5巻657頁)。

合併後の三田町ではまず7校を3校に統合する案が検討されました(市史第7巻517号資料)が、この案を再編して旧広野村立青野・加茂・内神3校の統合による広野小学校の創立が計画されたのです。市制施行の頃にはこの3校統合案は今後の「テストケース」(第3会市議会での議員の発言)と位置づけられ実現が急がれました。その結果、遠距離通学となる児童の通学手段と安全確保のための調整・整備が精力的に進められる一方で、まずは形式的に統合を実施するという方針がとられ、市制施行3ヵ月後の昭和33年10月1日暫定的にもとの3校をそのまま活用して広野小学校が創立されました。その後上井沢に統合校舎第1期工事が完了した昭和34年6月1日に改めて開校式が行われたのです(市史第7巻517号資料)。

このように同校の二つの創立記念日の背景には、財政の再建と児童の安全・安心の両立をめぐる、当時の関係者の並々ならぬ努力があったのです。